

京都教育大学FDニュース

No. 85

2018年3月28日

京都教育大学FD委員会

本学におけるFD活動の一環として実施しております「授業アンケート」へのご理解とご協力を感謝申し上げます。

今回のFDニュースでは、第2回FD研修会、平成29年度大学院教育学研究科授業アンケート調査結果、及び平成29年度学部授業アンケートフィードバック調査結果及び後期学部中間アンケート実施状況調査について、報告いたします。

1. 第2回FD研修会（教員就職指導のための教員研修会）

京都市教育を担う人材を求めて

－ 1人1人の子どもを徹底的に大切にする－

講師：京都市教育委員会 教職員人事課 加藤 正人 首席人事主事

平成29年の2回目のFD交流会が、就職対策委員会との共催で平成29年12月20日（水）に本学大会議室において開催されました。

研修会のテーマは「教員就職指導のための教員研修会」で、講師に京都市教育委員会教職員人事課の加藤正人首席人事主事をお招きし、「京都市の教育を担う教員として、どのような人材を求めたいのか」を主旨とするお話を伺いました。講演時間は45分で、その後若干の時間を取って、意見交換を行いました。

加藤首席人事主事の講演テーマは「京都市教育を担う人材を求めて」であり、講演の内容は「京都市教育の理念について」、「学校の年間行事と1日の流れ」、「どのような人材を求めたいのか」の順で進行しました。そして、まとめとして伺った京都市が求める教員像は、①公立学校の教員としての覚悟を持っていること。②スキルを高める努力を怠らないこと。③柔軟な対応力を持っていること。④高いコミュニケーション力を持っていること。以上①～④の資質を兼ね備えている人材ということでした。

講演のテーマによれば、これらの資質を兼ね備えた人材は京都市が求める教員像ということになりますが、このような人材は京都市のみならず、一般的に教員として求められる人物像といえるように感じました。「現場の要請に大学の教育内容がマッチしていない」という声を耳にすることがありますが、本学のような教員養成を主体とする大学では、「どのような人材が教員として求められているのか」を教育現場との意見交換等で明確にし、具体的な教育目標を持って人材育成に努める必要があると思います。そのような意味でも今回の研修は有意義であったと思います。

以下、加藤首席人事主事の講演の要旨です。

1. 京都市教育の理念

京都市の教育の理念は、「一人一人の子どもを徹底的に大切にする」ということです。具体的には、「一人一人は個々に異なる個性を持つということを理解した上で、個々に寄り添う教育を実践する」という意味になるようです。

また、「竈金の精神（明治2年、京都の町衆で竈のある家は全て金を出し合い、日本最初の64の学区制小学校を創設・運営した）に基づいて、市民ぐるみ、地域ぐるみで子どもを育てる教育を推進している」とのことでした。



2. 学校の年間行事と1日の流れ

中学校、小学校の年間行事と1日の流れについて、中学校の数学教師としてのご自身の体験談を交えて紹介して頂きました。この部分で心に残ったのは、以下のような教師像でした。①様々な行事の際に、子どもに寄り添う。②子ども自身や保護者の声を受け止める。③子どもと共に困難と闘う。④いつも元気で子どもと接する。⑤挨拶や授業の準備を大切にする。⑥子どもの反応をよく見て、指導に活かす。⑦子どもと一緒にやる。⑧人の話をよく聞き、研究を怠らない。

3. どのような人材を求めたいのか

教員採用試験を終えての感想は、「受験者に公立学校の教員になる覚悟が感じられない」ということのようにでした。「子どもの人生に大きく影響を及ぼす存在」として、「最後の砦になる覚悟を持つ」重要性を説かれました。

また、模擬授業での板書の拙さ、論文構成力や具体性のなさ、面接で面接官の目を見て話せない等から、「本当に先生になりたいのか」とも感じられたそうです。

まず「子どもが好きであること」、そして「子どもに届く話し方ができること」が重要であると説かれました。教員を目指す学生へのアドバイスとしては、①いつも見られている存在であることを忘れるな。②引き出しを多く持てるように努力せよ。③柔軟な対応力を養え。④どのようなタイプの人とでも合わせられるような協調性を養え。等がありました。

最後に、退職したある校長先生のモットーを紹介して頂きました。それは以下のようなものであり、おおいに共感できる内容でした。

①しんどい子をかかわる。②高度な教育をする。③楽しく仕事をする。④自分や家族を大切にする。



最後に、今回の研修会に参加頂いた先生方からの感想を以下に列記いたします。

- ・加藤先生の担任時代のきめ細やかな学級経営風景、京都市教育委員会の理念「大切にする」がよく理解できました。教師に何が必要なのかを垣間見ることができました。空き缶いかだの際、ボックスごと空き缶を持ってきた子のエピソード、どの子にどんな発問をするのかを考えながら廊下を歩く、万引き生徒にかける第一声にとまどう新米教師、などなど…。人の生き方を決定づけるのが教育なのですね。“最後の砦になる覚悟” いい仕事です。現場では「しんどい生徒」をあまり大切にされていない…と感じることがありますが。京教ブランド学生を精一杯育てます。
- ・加藤先生の教員経験をふまえたお話を興味深く伺いました。私は高校での教員経験があるので共通するところ、また別の視点から考えておられるところ等参考になりました。
- ・学生向けの内容を話していただき、リアリティが感じられ大変参考になった。とりわけ学校行事の流れからは教員になるモチベーションが向上するのではないかと感じた。もう少し時間があれば一層多くの事柄をうかがえたように思う。
- ・他者と付き合うということの難しさは、授業の時に非常に悩んでいるので、そのあたりの話をしてくださったのはよかったですと思います。
- ・学校の教員の仕事の内容が、課外活動の具体例をとおして良くわかりました。また、学校で望ましい教員の資質を具体的な項目立てで、丁寧に教示いただき、ありがとうございました。
- ・教員採用試験を振り返って感じるということと、お話いただいたことで、教員、教育公務員になる覚悟ができていない学生を多々見受けられるのが残念というのが、大変ひびきました。自身も少し感じているところでもあり、倫理感、道徳感を指導する上でも意識すべき点とも思いました。
- ・求めている人材として話してくださったことを参考にしてこれからの自分の授業や指導を考えていきたいと思いました。子どもの人生に大きな影響を与える教員を養成していることの責任をあらためて感じました。
- ・「面接で感じること」のお話を伺って、面接のスタートライン（人物評価）にも立てずに不合格になっている学生がそれなりにいるのだということを感じました。当たり前のように思えることでも、基本的な面接における態度や心がまえのようなものをしっかりと指導していくことも必要だと感じます。

- ・大学の育てようとしている教員像と、現場で求められる教員が異なっているという指摘に、なるほどと思いました。これまで「むしろそれは当然備えている資質」と考えてきましたが、それが通じない学生が年々増えていると思います。全学で議論が必要だと思います。

2. 平成29年度大学院教育学研究科授業アンケート調査結果

平成29年度大学院教育学研究科授業アンケート調査結果についてご報告いたします。

このアンケートは、大学院教育学研究科における授業の質を高めるためのFD活動の基礎資料とすること、並びに授業改善に役立てることを目的としています。

調査対象者は、教育学研究科に在籍する大学院生140名です。今回のアンケートは、従来の専修別ではなく、学校教育専攻、障害児教育専攻、教科教育専攻という大括りの形での回答をお願いしました。この変更により、回答者の匿名性が高まり、より踏み込んだ回答が期待できると考えられます。回答者数、回収率等については表1の通りです。回答者数は55人、回収率は39.29%であり、昨年度の36.9%から微増していますが、低率という傾向は変わっておらず、向上のための継続的な検討が必要と考えられます。

【表1 回答者数】

区分	学校教育専攻			障害児教育専攻			教科教育専攻			不明	全体
	専任教員 経験なし	専任教員経験あり		専任教員 経験なし	専任教員経験あり		専任教員 経験なし	専任教員経験あり			
		現職	非現職		現職	非現職		現職	非現職		
回答者数	11	3	4	0	2	0	24	6	1	4	55
在籍者数	36			8			96			—	140
回答率	50.00%			25.00%			32.29%			—	39.29%

質問1. 平成29年度の履修科目数

表2は、所属別および授業区分ごとの履修科目数です。今回のアンケートの基礎情報の一つです。

【表2 平成29年度履修科目数】

所属	学校教育専攻			障害児教育専攻			教科教育専攻			全体
区分	特論又は 特講	特別 演習	学校教育 実践総論	特論又は 特講	特別 演習	臨床実習 又は 事例研究	特論 又は 特講	教科 内容論	教育実践 特別演習	
履修科目数	188	34	37	24	9	2	112	48	40	494

質問2. 「どの程度意欲的に取り組みましたか」

質問2では、所属ごとまた授業区分ごとに、受講生の意欲の度合いについて尋ねました。結果は表3の通りです。全体的な傾向として、「とても意欲的に取り組んだ」「やや意欲的に取り組んだ」が合わせて95.55%となっており良好であることがうかがえます。ただし、学校教育専攻の「学校教育実践総論」が、「やや意欲的に取り組んでいなかった」「ほとんど意欲的に取り組んでいなかった」を合わせて、実数で8人、割合で21.62%となっている点には、若干の検討の余地が見受けられます。

【表3 質問2. 「どの程度意欲的に取り組みましたか」 の回答】

所属	学校教育専攻			障害児教育専攻			教科教育専攻			全体
	特論 又は 特講	特別 演習	学校教 育実践 総論	特論 又は 特講	特別 演習	臨床実習 又は 事例研究	特論 又は 特講	教科 内容論	教育実 践特別 演習	
とても意欲的に 取り組んだ %	122 64.89%	27 79.41%	17 45.95%	11 45.83%	2 22.22%	0 0.00%	87 77.68%	41 85.42%	30 75.00%	337 68.22%
やや意欲的に 取り組んだ %	58 30.85%	5 14.71%	12 32.43%	13 54.17%	7 77.78%	2 100.00%	22 19.64%	7 14.58%	9 22.50%	135 27.33%
やや意欲的に取り 組んでいなかった %	6 3.19%	1 2.94%	7 18.92%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	3 2.68%	0 0.00%	1 2.50%	18 3.64%
ほとんど意欲的に取り 組んでいなかった %	2 1.06%	0 0.00%	1 2.70%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	3 0.61%
未回答 %	0 0.00%	1 2.94%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	1 0.20%

質問3. 「期待どおり・期待以上の科目の理由（どういう点がよかったのか）」

質問3は、授業の満足度についてです。表4からは、授業全体として、「とても満足した」「やや満足した」が合わせて85.63%となっている点から、授業満足度も良好であることがうかがわれます。ただし、学校教育専攻の「特論又は特講」で「やや不満だった」「とても不満だった」が合わせて18.09%（実数では34人）、また教科教育専攻の「特論又は特講」で「やや不満だった」8.93%（実数では10人）となっている点に、若干の検討の余地が見受けられました。「特論又は特講」の満足度が低い傾向は障害児教育専攻も同様ですが、こちらは実数が少ないために、傾向を読み取るのはやや慎重になった方がよいように思われました。

【表4 質問3. 「どの程度満足しましたか」 への回答】

所属	学校教育専攻			障害児教育専攻			教科教育専攻			全体
	特論 又は 特講	特別 演習	学校教 育実践 総論	特論 又は 特講	特別 演習	臨床実習 又は 事例研究	特論 又は 特講	教科 内容論	教育実 践特別 演習	
とても満足した %	106 56.38%	22 64.71%	16 43.24%	14 58.33%	4 44.44%	0 0.00%	67 59.82%	37 77.08%	25 62.50%	291 58.91%
やや満足した %	48 25.53%	9 26.47%	14 37.84%	8 33.33%	5 55.56%	0 0.00%	30 26.79%	9 18.75%	9 22.50%	132 26.72%
やや不満だった %	29 15.43%	0 0.00%	5 13.51%	2 8.33%	0 0.00%	2 100.00%	10 8.93%	1 2.08%	3 7.50%	52 10.53%
とても不満だった %	5 2.66%	0 0.00%	2 5.41%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	7 1.42%
未回答 %	0 0.00%	3 8.82%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	5 4.46%	1 2.08%	3 7.50%	12 2.43%

質問4. 「どの程度の難易度でしたか」

質問4は、難易度についてです。表5から、全体としては、「とても難しかった」「やや難しかった」が合わせて65.99%、「やや易しかった」「とても易しかった」が30.16%となりました。区別の傾向としては、「特論又は特講」で「やや易しかった」「とても易しかった」の項目が高いようです。慎重な判断が必要ではありますが、さきほどの表4の満足度の傾向といくらか重なっているように見受けられることから、「やや不満だった」「とても不満だった」の原因として、受講生の既有知識や意欲、能力等に対して、「特論又は特講」の難易度がややミスマッチとなっている可能性が示唆されます。

【表5 質問4. 「どの程度の難易度でしたか」への回答】

所属	学校教育専攻			障害児教育専攻			教科教育専攻			全体
	特論 又は 特講	特別 演習	学校教 育実践 総論	特論 又は 特講	特別 演習	臨床実習 又は 事例研究	特論 又は 特講	教科 内容論	教育実 践特別 演習	
とても難しかった %	13 6.91%	4 11.76%	1 2.70%	1 4.17%	1 11.11%	0 0.00%	21 18.75%	7 14.58%	6 15.00%	54 10.93%
やや難しかった %	100 53.19%	20 58.82%	17 45.95%	12 50.00%	4 44.44%	2 100.00%	64 57.14%	26 54.17%	27 67.50%	272 55.06%
やや易しかった %	70 37.23%	4 11.76%	10 27.03%	11 45.83%	4 44.44%	0 0.00%	21 18.75%	8 16.67%	4 10.00%	132 26.72%
とても易しかった %	5 2.66%	1 2.94%	4 10.81%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	1 0.89%	6 12.50%	0 0.00%	17 3.44%
未回答 %	0 0.00%	5 14.71%	5 13.51%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	5 4.46%	1 2.08%	3 7.50%	19 3.85%

質問5. 「体系的でよくまとまっていたか」

質問5は授業内容の体系的性についての質問です。全体としては、「とてもまとまっていた」「ややまとまっていた」が合わせて84.21%と良好であることがうかがえます。細部については目立った傾向性を見出すのは難しいように思われます。

【表6 質問5. 「体系的でよくまとまっていたか」への回答】

所属	学校教育専攻			障害児教育専攻			教科教育専攻			全体
	特論 又は 特講	特別 演習	学校教 育実践 総論	特論 又は 特講	特別 演習	臨床実習 又は 事例研究	特論 又は 特講	教科 内容論	教育実 践特別 演習	
とてもまとまっていた %	93 49.47%	23 67.65%	19 51.35%	13 54.17%	0 0.00%	0 0.00%	59 52.68%	29 60.42%	21 52.50%	257 52.02%
ややまとまっていた %	58 30.85%	7 20.59%	14 37.84%	10 41.67%	9 22.22%	2 100.00%	33 29.46%	15 31.25%	11 27.50%	159 32.19%
ややまとまっていなかった %	33 17.55%	1 2.94%	2 5.41%	1 4.17%	0 0.00%	0 0.00%	11 9.82%	3 6.25%	4 10.00%	55 11.13%
ほとんどまとまっていなかった %	4 2.13%	0 0.00%	2 5.41%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	4 3.57%	0 0.00%	1 2.50%	11 2.23%
未回答 %	0 0.00%	3 8.82%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	5 4.46%	1 2.08%	3 7.50%	12 2.43%

質問6. 「担当教員が受講生の理解や反応を受け止めながら授業をしていたと思いますか」

質問6は、受講生の理解や反応に即した授業であったかを問うものです。表7から、全体としては、「とても思う」「やや思う」が合わせて86.24%、「やや思わない」「ほとんど思わない」が合わせて11.34%となりました。全体的な傾向としては良好といつてよいと思いますが、少数ながら、授業が理解や反応に即していないと感じている学生がいるということには、（あくまで一般論としてですが）留意しておくことが重要と思われます。

【表7 質問6. 「担当教員が受講生の理解や反応を受け止めながら授業をしていたと思いますか」への回答】

所属	学校教育専攻			障害児教育専攻			教科教育専攻			全体
	特論 又は 特講	特別 演習	学校教 育実践 総論	特論 又は 特講	特別 演習	臨床実習 又は 事例研究	特論 又は 特講	教科 内容論	教育実 践特別 演習	
とても思う %	96 51.06%	25 73.53%	20 54.05%	13 54.17%	5 55.56%	0 0.00%	66 58.93%	33 68.75%	17 42.50%	275 55.67%
やや思う %	55 29.26%	6 17.65%	10 27.03%	10 41.67%	4 44.44%	2 100.00%	37 33.04%	11 22.92%	16 40.00%	151 30.57%
やや思わない %	31 16.49%	0 0.00%	5 13.51%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	3 2.68%	3 6.25%	3 7.50%	45 9.11%
ほとんど思わない %	6 3.19%	0 0.00%	2 5.41%	1 4.17%	0 0.00%	0 0.00%	1 0.89%	0 0.00%	1 2.50%	11 2.23%
未回答 %	0 0.00%	3 8.82%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	5 4.46%	1 2.08%	3 7.50%	12 2.43%

質問7. 「授業を受けるにあたってシラバスは参考になりましたか」

質問7はシラバスの活用について尋ねたものです。表8から、全体として、「とても参考になった」「やや参考になった」が合わせて80.17%と、良好であることが確認できます。

【表8 質問7. 「授業を受けるにあたってシラバスは参考になりましたか」への回答】

所属	学校教育専攻			障害児教育専攻			教科教育専攻			全体
	特論 又は 特講	特別 演習	学校教 育実践 総論	特論 又は 特講	特別 演習	臨床実習 又は 事例研究	特論 又は 特講	教科 内容論	教育実 践特別 演習	
とても参考になった %	66 35.11%	21 61.76%	14 37.84%	7 29.17%	2 22.22%	0 0.00%	43 38.39%	25 52.08%	18 45.00%	196 39.68%
やや参考になった %	77 40.96%	10 29.41%	16 43.24%	13 54.17%	4 44.44%	2 100.00%	55 49.11%	13 27.08%	10 25.00%	200 40.49%
やや参考にならなかった %	25 13.30%	0 0.00%	4 10.81%	3 12.50%	3 33.33%	0 0.00%	8 7.14%	8 16.67%	8 20.00%	59 11.94%
ほとんど参考にならなかった %	20 10.64%	0 0.00%	1 2.70%	1 4.17%	0 0.00%	0 0.00%	1 0.89%	1 2.08%	1 2.50%	25 5.06%
未回答 %	0 0.00%	3 8.82%	2 5.41%	0 0.00%	0 0.00%	0 0.00%	5 4.46%	1 2.08%	3 7.50%	14 2.83%

質問8. 「教員となるうえで（教員にとって）役立つと感じましたか」

質問8は、当該授業の内容が、教員となるうえで、あるいは教員にとって役に立つと思うかを尋ねたものです。なおこの設問は、「教員となるうえで（教員にとって）」と尋ねることで、必ずしも教員志望でない受講生が回答するケースについても配慮したかたちになっています。

表9から、全体として、「とても役立つと感じた」「やや役立つと感じた」が合わせて83.00%と良好であることが確認できます。学校教育専攻の「特論又は特講」で「やや役立つと感じた」「ほとんど役立つと感じた」と回答した受講生がやや目立ちますが、これについては、当該専攻の授業には、必ずしも狭義の意味で教育実践等に直接役に立つことを企図していない授業等も含まれていること（むしろ授業内容には、学校教員以外の発達援助職に関する内容や、教職についての相対化も含めた広義の教職教養という側面もあると考えられること）、したがってこの評価がそのまま授業そのものの評価とは限らない点に、一定の留保が必要と考えられます。

【表9 質問8. 「教員となるうえで（教員にとって）役立つと感じましたか」への回答】

所属	学校教育専攻			障害児教育専攻			教科教育専攻			全体
	特論 又は 特講	特別 演習	学校教 育実践 総論	特論 又は 特講	特別 演習	臨床実習 又は 事例研究	特論 又は 特講	教科 内容論	教育実 践特別 演習	
とても役立つと感じた	76	19	18	13	3	0	52	30	18	229
%	40.43%	55.88%	48.65%	54.17%	33.33%	0.00%	46.43%	62.50%	45.00%	46.36%
やや役立つと感じた	74	12	10	8	4	2	43	14	14	181
%	39.36%	35.29%	27.03%	33.33%	44.44%	100.00%	38.39%	29.17%	35.00%	36.64%
やや役立つと感じないと感じた	34	0	5	2	2	0	9	2	3	57
%	18.09%	0.00%	13.51%	8.33%	22.22%	0.00%	8.04%	4.17%	7.50%	11.54%
ほとんど役立つと感じないと感じた	4	0	2	1	0	0	3	1	2	13
%	2.13%	0.00%	5.41%	4.17%	0.00%	0.00%	2.68%	2.08%	5.00%	2.63%
未回答	0	3	2	0	0	0	5	1	3	14
%	0.00%	8.82%	5.41%	0.00%	0.00%	0.00%	4.46%	2.08%	7.50%	2.83%

質問9. 「受講生がストレートマスターと現職教員で構成されている授業を履修して感じたこと（配慮してほしいこと）があれば記入してください。」についての回答（自由記述）

①専任教員経験なし

【現職経験者がいることのメリット】

- ・現職経験者からの視点を授業の中で共有することができたため、ストレートマスターからすると非常にありがたかった。
- ・授業という概念に他専攻のストレートマスターと現職教員が関われるのはとてもよい。
- ・ストレートマスターは経験が乏しいので、現職教員の実体験が聞けたのは大変大きな収穫だった。

【授業構成上の要望】

- ・現職経験者の意見を聞く機会があるのは貴重であると同時に、ついていけなさも感じることもある。
- ・配慮してほしい点は、より専門性の高い講義を受けたいので、現職の方へのサポートを先生にもしていただくと嬉しい（資料等）。
- ・もう少し現職教員の方も入学試験の時に専門知識を問うべきではとも思う。
- ・現職教員の方の話をうまく活用して欲しい。
- ・もう少し（特に4時限）時間の融通がきくとよい。実践例研究などは、経験が少ないので、現職だけのグループを組むよりは、1グループ1人現職などバランスがとれると良い。
- ・大人数になると、現職の先生が学校の組織の質問、仕組みのことを説明して先生が解答している場面があるが、働いていない学生には分からないので、全体に向けて解説をして欲しいときもある。

②専任教員経験あり・現職者

【ストレートマスターがいることのメリット】

- ・様々な視点からの交流ができとても勉強になった。
- ・それぞれの視点のよさを引き出そうとくださっているのが伝わってきた。

【授業構成上の要望】

- ・みんな等しく発言する機会や、良い交流（ディスカッション等）があればいいと思う。
- ・教授者が現職の意見を尊重してくださる雰囲気はありがたいのですが、時として「その視点こそが批判的に検討されるべきなのに」という場合に、ストレート院生が遠慮してか、意見を言わないことが多い。このようなとき、教授者が双方から無記名カードを回収して、次の講義の最初に討論するなどした方が、双方ともに理解が深まると思う。
- ・夏休み中の集中講義が、急に不開講となり、その連絡が受講生に知らせるのが遅いように感じた。

質問10. 「その他授業改善に資するご意見があれば、記入してください。」への回答（自由記述）

①専任教員経験なし

【授業について】

- ・シラバスではレポートの評価となっていたものを、途中でテストによる評価に変更されて動揺した。シラバス通りにしてほしい。
- ・実習系の授業が特論に入るのか特別演習に入るのかがわからなかった。
- ・教育臨床心理のコースにもっとカウンセリングの実習（ロールプレイなど）の授業を設けるべき。
- ・古いデータを資料にしないで欲しい。
- ・現場の感覚も、新しいものを取り入れて欲しい。
- ・総じて授業の難易度（単位の取りやすさ）は易しいので、これからも後輩の単位の取りやすい運営をしてほしい。
- ・休講通知は早目に連絡してほしい
- ・受講態度の悪い院生がいる場合モチベーションが下がるので、担当の先生も強気で注意してもいいのではないかと思う。
- ・受講人数が少ない授業は発表回数が増えるので、そのあたり考慮してほしい。

【施設設備等について】

- ・IPCのパソコンが年末から使えなくなることはやめてほしい。
- ・ゴミブリ対策に、力を入れてほしい
- ・Amosが使えるPCを増やしてほしい。修論作成がしやすい環境を整えてほしい。eX印刷機の設置、使いやすさ
- ・レポート提出だけでなく、普段の出欠連絡や質問等に対応してもらうため、最初の授業時に全教員メールアドレス（kuemail）と所属場所をレジюме等を書いて渡してほしい。
- ・事務室が閉まってしまっている時間帯の講義だと、鍵がかかっているため冷暖房が使えず不便なときがある。鍵の扱いを変えてほしい。
- ・G棟2階のコピー機が故障か動かない。授業準備に困るため直して欲しい。
- ・授業で使用する部屋のマーカークのインクがないので新しくした方がよい。

②専任教員経験あり・現職者

【授業について】

- ・6・7時限の授業に限られていてなかなか履修にたどりつけない。夏期集中、1日だけ日程が重なっているだけでも1講座履修できず残念。
- ・先生方が言いたいことを言うだけでなく、授業でどんなことを学びたいかをくみとって進めてほしい。せっかく少人数なのに時間もったいない。
- ・現場経験のない教員が「学校とは」「教育とは」と語ることに違和感を覚えた。
- ・シラバスについて。受講生の構成によって講義内容がかなり変わる可能性がある場合、シラバスに過去の実施内容が15回分書かれているよりは、「内容は受講生の希望によるが、次の内容は必須とする。①…②…③…」などと表記していただく方が助かる。

- ・授業の開始時刻・終了時刻を厳守してほしい。後の授業に遅れる。
- ・シラバスを参考に授業を選ぶ際、シラバスの正確性が重要になる。特にストレートマスターでない場合、先生方の普通の授業の進め方も知らないため、シラバスに書かれていること以外判断のしようがない。
- ・遅刻、欠席する教員がいる。授業数が少ないので、一回でも休講があるともったいない。(仕事を休んでおり授業料以上の学びがほしいので)
- ・購入したテキストの半分も終わっていない授業があり、計画性のなさがうかがえる。
- ・90分の授業の3分の1が余談とみなされる内容の授業がある。また学生が発表している途中で退出する教員がいる。
- ・レジュメ等の発表資料のコピー代金がかかりすぎ。(授業料に含まれるのでは?)
- ・学校教育専攻設置授業科目は授業準備もしっかりされており充実した講義だった。
- ・単なる一方通行の講義形式ではなく、2人組、4人組等のディスカッション形式もとり入れた授業で工夫が感じられた。
- ・卒論・修論で忙しいときにIPCが使えないのが不便。

3. 平成29年度学部授業アンケートフィードバック調査結果及び後期学部中間アンケート実施状況調査結果の報告

1. 調査の概要

前期及び後期の授業の後半に実施をお願いしております学部授業アンケートにつきまして、アンケートを実施いただきました皆様に集計結果をお返ししています。お返しした結果の活用状況についての調査を行いました。

同時に、本年10月にお願いいたしました「平成29年度後期 授業中間アンケート」の実施状況につきましても、調査を行いましたのでご報告します。アンケートの回収枚数は常勤・非常勤ともに49枚でした。

2. 学部授業アンケートフィードバック調査の結果

問1. 前年度等に実施した授業アンケート結果を平成29年度後期の授業にフィードバックしている

項目	回答数	比率
はい	31	63.3%
いいえ	4	8.2%
前年度等にアンケート未実施	10	20.4%
不明	1	2.0%
回答なし	3	6.1%
計	49	100%

問2. フィードバックしていない理由についてお聞かせください。

- ・毎回、授業終了時に、ミニレポート（授業内容・感想・意見等）を書かせており、必要なことは都度フィードバックするように努めている。
- ・毎回学生に感想を書かせ、それに対して、フィードバックしている。
- ・対象となる学生が異なるため。
- ・特に改善を必要とする項目がなかった。

問3. フィードバックされた内容についてお聞かせください（複数回答可）

項目	回答数	比率
時間外の学習時間を見直した	4	6.3%
意欲的に取り組めるよう対応した	8	12.5%
テーマ・領域を見直した	5	7.8%
教職への意欲・動機が高まるよう対応した	4	6.3%
難易度を見直した	8	12.5%
体系的でまとまった授業を心掛けた	3	4.7%
授業の説明をわかりやすくした	12	18.8%
テキスト(配布資料など)のレベルを見直した	4	6.3%
速度(進度)を見直した	5	7.8%
受講生の理解や反応を受けとめるようにした	10	15.6%
その他(授業への取り組み方について考える時間をとった)	1	1.6%
計	64	100.0%

6割以上の先生方が前年度等に実施した授業アンケート結果を授業にフィードバックしているということがわかりました。フィードバックしていないと回答された先生も、普段から独自にフィードバックを行っているという報告が複数見られ、学生の反応に応じた授業づくりを進めていることがうかがえました。フィードバックの内容は、説明をわかりやすくする、難易度を見直すという授業のわかりやすさに関する工夫、受講生の理解や反応を受け止める、意欲を高める工夫が多くみられました。

3. 後期学部中間アンケート実施状況調査結果

問1. 独自作成のものも含め授業中間アンケートを実施した

項目	回答数	比率
はい	38	77.6
いいえ	10	20.4
無回答	1	2.0
計	49	100.0

問2. 授業中間アンケートを実施しなかった主な理由についてお聞かせください。

【少人数又は実習等で人数が揃わないため】（3件）

- ・受講者少数のため
- ・履修者が少数（4人）だったため
- ・少人数なので生徒の状態を把握できていると考える

【時間不足のため】（2件）

- ・実施の時間が確保できなかった
- ・授業時間が限られており、なるべく時間をとられたくないから

【毎回の授業で実施しているため】（2件）

- ・毎回、学生に感想、意見を書かせている。
- ・毎回ミニレポートを実施しており、その都度意見なども含め記入を促した

【その他】（2件）

- ・授業全体を総合的に評価してもらいたいから
- ・複数名で担当しており中間アンケートの意味がない

問3. 使用した様式について

項目	回答数	比率
FD委員会の様式	35	89.7
独自の様式	4	10.3
計	39	100.0

問4. 中間でのアンケートを実施することについて

項目	FD委員会様式使用	独自様式使用	計	比率
意義があった	16	2	18	46.2
どちらかという意義があった	14	1	15	38.5
どちらかという意義がなかった	3	1	4	10.3
意義がなかった	0	0	0	0.0
無回答	2	0	2	5.1
計	35	4	39	100.0

問5. 授業中間アンケートの結果を受けて、授業内容・方法を変えた点があれば具体的にお聞かせください。

【実施・FD委員会様式使用】

- ・特にありません（2件）
- ・授業で取り扱っている内容の時間配分など
- ・毎回レフレクションペーパーを配布しているので、新しいことがこれとって無かった
- ・屋外での授業が多く、寒いという意見あり。部屋と外をうまく利用できるように工夫
- ・良好な結果であったことから、従来のやり方を維持するように努めている
- ・授業で行なっている課題や進め方について、それらの目的について再度説明した。
- ・スローラーナーでありそうな学生たちに確認している
- ・教科書を見る前に必ず平易な説明を加えるようにした（教科書の書き方が、表現が難しいという意見があったため）
- ・文法の説明をより詳しく行なった。ポートフォリオによるふり返りの時間を多くとった。文化的な内容をより授業に取り入れた（音楽や町の映像など）
- ・座席位置の変更、出席確認の方法
- ・テキストが難しいという意見が多かった。ちょうど読み終えたときにアンケートをしたので、改善はできなかったが、解説を加えることで対処できた。

【実施・独自の様式使用】

- ・毎回、「何を学んだのか」の要約と感想を書いてもらいます。誤解や、質問を次回に修正することから、授業をスタートしています。コメントカードにて意見をすい上げています。

【未実施・独自の様式使用】

- ・毎回、出てきた意見に対してコメントしている。

問6. 授業へのフィードバックの内容について、お聞かせください（複数回答可）。

項目	FD委員会 様式使用	独自様式 使用	計	比率
時間外の学習時間を見直した	1	0	1	1.6
意欲的に取り組めるよう対応した	9	0	9	14.1
テーマ・領域を見直した	3	0	3	4.7
教職への意欲・動機が高まるよう対応した	3	0	3	4.7
難易度を見直した	8	0	8	12.5
体系的でまとまった授業を心掛けた	2	0	2	3.1
授業の説明をわかりやすくした	12	1	13	20.3
テキスト(配布資料など)のレベルを見直した	2	0	2	3.1
速度(進度)を見直した	8	1	9	14.1
受講生の理解や反応を受けとめるようにした	11	1	12	18.8
その他	1	1	2	3.1
計	60	4	64	100.0

- 【その他の内容】
- ・配布プリントの工夫（わかりやすくした）
 - ・教科書を見る前に必ず平易な説明を加えるようにした（教科書の書き方が、表現が難しいという意見があったため）

問7. FD委員会様式の「授業中間アンケート」の設問について、お聞かせください。

項目	FD委員会 様式使用	独自様式 使用	アンケート 実施せず	無回答	計	比率
改善の余地あり	3	0	0	0	3	6.1
現状のままでよい	30	1	0	0	31	63.3
無回答	2	2	10	1	15	30.6
計	35	3	10	1	49	100.0

- 【改善の余地あり】
- ・“ちょうどよい”という設問もほしいです。
 - ・4件法を5件法が混在しているので、どちらかに統一していただいた方が解釈や解釈がしやすいかもしれません。
 - ・記名式にするのはどうでしょう

38名の先生が中間アンケートを実施されていました。実施しない理由としては受講者が少数、時間が足りない、毎回の授業で実施しているという理由が挙げられていました。回答者のうち8割以上が中間アンケートに「意義があった」もしくは「どちらかというとも意義があった」と回答しており、中間アンケートをうまく活用していただいていることがわかりました。中間アンケートの結果を受けて授業を改善した内容については、時間配分、難易度、授業の環境、授業の目的を説明するなどの回答がありました。

中間アンケートの洋式については、FD委員会の様式を利用された先生の多くが現状のままでよいとお答えになっていましたが、回答の選択肢の改善、記名式にするなどのご意見と頂きました。

全体として、授業アンケートや独自の方法を利用して熱心に授業改善をしておられる先生が多い結果となりました。本アンケートにご協力いただいた先生は熱心に授業を作っておられる傾向があるかと思いますが、少なくない人数の先生方がさまざまな工夫を取り入れていることを示すことは大きな意義があると思います。

アンケート結果やアンケートを通じて頂いたご意見は、今後のFD活動の参考にさせていただきます。ご協力ありがとうございました。

問い合わせなどがありましたら、下記の委員までお願いいたします。

FD委員会委員：太田（委員長）、藪根（副委員長）、山口、神代、佐藤（美）

（事務担当：富家、山本、鈴木）